緑の保全へ伐採作業に汗 花の種販売や募金活動も

（株）アサヒディード

大阪府と和歌山県の境にある和泉葛城山（標高858m）はブナの原生林で知られています。群生の南限と言われ、天然記念物にも指定されています。その斜面の一つ蕎原の森（貝塚市蕎原）でオレンジ色のヘルメットに白の揃いのジャンパー姿の人達が、伐採作業に汗を流しました。

アサヒディードの社内で応募した若者らが「緑の保全活動」に積極的に参加したのです。伐採は森林の無駄な部分を取り除き、太陽光が成長する樹木に当たるようにする作業です。雑草や木に巻き付いたツルを切り、余計な雑木があれば切っていきます。丁寧にやらないと逆効果で生態系に変化を与えてしまうので、この時も地元の林業の専門家の指導で作業に当たりました。ヘルメットは大阪みどりのトラスト協会から借りたものでした。午前10時から午後3時まで続いた作業でみんな汗にまみれていましたが、心地よい疲労と達成感がどの顔にも現れていました。

この活動は08年からこれまで3回行われてきました。販促演出担当の豊田雄次さんは蕎原を選んだ理由について「伐採で緑保全に寄与出来ると同時に、ここなら変化を見ていくことが出来る。過程が大切ですから」と説明しています。

「緑の保全」活動を終えて、明るい笑顔が並ぶ

伐採は、日当たりなど考え神経をつかう

体を動かす社員参加が基本

また、緑化推進のための募金運動「グリーンアップキャンペーン」も5月に行ってきました。国土緑化推進機構の強化期間に合わせたもので、全営業所（12か所）に募金箱を置き、チューリップやパンジーの種を販売したり、募金を呼びかけたりしました。これまで3回実施し、延べ140人の社員が参加しました。募金をしてくれたお客さんには緑の羽根を、また、300円以上募金してくれた人には緑のバッジを進呈しています。

さらにスペシャルオリンピックス日本・大阪にも30～50人の社員がボランティアとして参加しています。知的発達障害のある人たちにさまざまなスポーツのトレーニングと競技会を年間を通じて提供していく活動で、故ケネディ元大統領の妹が自宅の庭を開放して開いたのが始まりと言われています。それが世界に広がり、同社は01年に初めて参加しています。社員たちは休みを互いに調整し、陸上競技やバスケットボールなどの競技のお手伝いをしてきました。また、アスリートたちと一緒に競技に参加したりもしています。

このほか、ジャワ島スマトラ沖地震の際、義援金を読売光と愛の事業団・大阪支部に寄託したり、消費電力を削減するため照明を電球からLEDに切り替える作業を始めたり、様々な取り組みを行っています。同社は08年12月に「環境方針」を定めています。その前文には「『地球環境への貢献』を目ざして、事業所のある『地域と人々』の環境に配慮し、豊かな暮らしの実現に取り組みます」とその意気込みを示しています。この基本理念の元にこれからも多様な社会貢献活動が続けられて行きそうです。